会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回連絡調整会議 |
| 開催日時 | 令和5年12月12日（火）10:00～12:00 |
| 場所 | オンライン |
| 出席者 | 委　　　員：成底　敏、泉田　優、松田　義弘、猪俣　昇、植上　一希、柳田　祐大　　　　　　　　　　計6名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 〇授業改善サポーター育成研修プログラム開発（猪俣）・アンケート結果に基づいて現在仮想のプログラムを作成して実証を始めている。・11月10日に対面授業、12月11日に第1回リフレクションを終えた。・15名が参加者。・今後は1月15日に第2回のリフレクションを実施する予定。・事前学習の内容は、熊本大学にご協力をいただいて作成。・ID理論に基づいてシラバスを作成し、それを発表していただくような形式。・対面当日は、アクションプランの作成をお願いし、皆さんに集合していただいた。・リフレクションまでに、全ての事前課題を提出いただいた。・アンケートの結果を見ると概ね良かった良好であるが、事前学習の負担が大きいことが挙げられた。・他校の考えかたをグループにて共有できたので良かったと回答する者が見受けられた。・事前課題のワークについては、専門学校対応の課題ではなくこの部分について調整が必要。・コミュニケーションツールについては、Dixcordを利用して図ることとした。かなりカジュアルな投稿が増えたような気がする。グループで取り組む課題を投稿したことの効果があったのではないかと感じる。--------------------意見交換・授業の目的としてサポーター同士のコミュニケーションをとることとなっていた。この件については、活性化された。（成底）・授業改善サポーターの資質要件などについて通る必要がある。そのたカリキュラムや調査報告が必要となる。（成底）・また、本年度および今後の目標を動画にまとめることをイメージしてほしい。（成底）・了解した。（猪俣）・本年度は熊大と連携しているが3年後は独自の運用が必要となる。3年後を見据えた結果を導く必要がある。特に講師に関しては、合田委員以外の先生に登壇できる体制を整備してほしい。（成底）・授業改善サポーターとしての認識を再度持たせる必要がある。受講者の中には自分の授業改善を主たる目的としている参加者がいるように見える（飯塚）・了解した。（猪俣）〇専門学校教員概論開発委員会（植上）・11月までに調査を実施した。・残り2回の委員会の中で、次回は専門学校教職概論の枠組みについて議論していく予定としている。・最終回は、成果報告のとりまとめを行う予定。・10～11月は、専門学校数校と団体について行った。・新たな教材作成のニーズなどについて調査をした。・現在は調査の文字を起こし、研究者グループにて調査結果の概要を検討していくところである。・具体的な知見について取りまとめる予定。・アウトプットとして専門学校教育概論の必要性について取りまとめる予定。・アンケート結果の肌感覚としては、教員の離職の問題は重要な観点であると考えている。------------------意見交換・次年度の実証講座についての対象は誰になるのかを再度検討する必要がある。（成底）・新任教員がメインと考えているが、いろいろな新任の方々がいらっしゃるのでこの辺りも件用材料としていきたい。福岡専各の新任教員研修で私の講演があるのでそこで試し。（植上）・個別の教員に対して、キャリアアイデンティティ、キャリアオーナーシップを醸成し、チームで教育に向き合う力が重要である。（飯塚）・飯塚さんの意見は重要なことだと考えている、具体的にまとめていきたい。（植上）〇教職員研修実施委員会（泉田）・FD・SDのセミナーは実施を終了した。・職マネと自己点検のセミナーを今後実施していく。東京会場と福岡会場を実施するが、東京会場に関しては既に満席となっている。・FD・SDのセミナーの内容については、別添の資料を参照してほしい。・職業教育マネジメントと自己点検・評価セミナーの内容は案内文を参照してください。-----------------意見交換・このセミナーは、全専研がこれまでに開発した内容を広く伝えていくことが目的の一つとして上がっているが、この点は目標を達成している。今後の研修計画については一度検討が必要だ。（成底）・了解した。（泉田）〇産学連携推進委員育成開発委員会（柳田）・予定していたヒアリング調査をすべて終了している。対面3校、オンライン3校。次回委員会にて情報を共有する。・産学連携を学校側からお願いしているものと学校側からお願いしているところに区分される。・目的としてはコミュニケーションスキルを伸ばす目的が大きかった。・評価は、学生からのアンケートが多かった。学校としての評価についてはいまだ取り扱っていない学校が多かった。・産学連携推進員を育成していく中で、能力を特定していく必要があることが重要と考える。・次回の委員会では、方向性の検討を行うこととしている。-------------------意見交換・授業改善サポーターと同様に3年後にはプログラムを完成される必要があるので、次年度にまずはサンプル講座の実施ということを考えてください。（成底）・了解した。〇成果報告について（成底）・今年度は、成果報告はオンラインにて実施する。各委員に関しては動画作成なども視野に凍てれ置いてほしい。〇e-learningのポータルサイト（成底）・これまでに開発した動画コンテンツの開発について検討したいと思うが、何か方法論はあるか。・現状としてはID講座をウイネットのシステムにて動かしている。運用をするよりも管理についてどのようにするのかを考えないといけない。運用に関しては、現状の参加数であればあまり問題はないが、積極的に実施していくには体制を検討する必要がある。（猪俣）・この件については、全専研の理事会に図る必要がある。（成底）〇次回日程・2月26（午前）・27日あたりを候補日として今後 |
| 配布資料 |  |

以上